

保護者向け

2月号

校長室だより

令和8年2月2日
座間市立相武台東小学校
校長 柏木 直樹

言葉の力で心を動かす ～ペップトークのすすめ～

一年で最も寒さが厳しい時期となりましたが、先週から始まった「なわとび月間」に、子供たちは月・火・水の中休みを使って元気に校庭で体を動かしています。冷たい空気の中でも楽しそうに跳ぶ姿を見ると、寒さを忘れるほどのエネルギーを感じ、私たち大人も自然と力をもらっています。



さて、今月は「ペップトーク」についてお話ししたいと思います。ペップトークとは、もともとアメリカのスポーツ現場で使われていた「試合前に選手を励ます短いスピーチ」のことです。最近では、教育や家庭、職場など、さまざまな場面で注目されるようになりました。

この「ペップトーク」の力を、私たちが実感した出来事のひとつが、2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップです。日本代表チームは「ONE TEAM (ワンチーム)」というスローガンのもと、世界の強豪を相手に堂々と戦い、史上初のベスト8進出という快挙を成し遂げました。

その裏には、選手同士が互いに声をかけ合い、励まし合い、信じ合う姿がありました。試合前のロッカールームでは、キャプテンやコーチが仲間に向けて熱い言葉をかけ、選手たちはその言葉を胸にフィールドへと飛び出していきました、まさに、言葉の力が選手たちの心を奮い立たせたのです。

子供たちもまた、日々の学校生活の中で、さまざまな挑戦に向き合っています。テストや発表、友だちとの関わりなど、不安や緊張を感じる場面も多いことでしょう。そんなとき、私たち大人の「ひと言」が、子供たちの背中をそっと押す力になります。

「失敗しても大丈夫。チャレンジしたことがすごいね」「君ならできると信じてるよ」——そんな前向きな言葉が、子供たちの心に勇気と自信を与えます。ラグビー日本代表のように、子供たちも「自分是可以る」と信じられるような言葉を、日々の中で届けていきたいものです。

2月は学年のまとめの時期でもあり、子供たちが次のステップに向けて大きく羽ばたく準備をする大切な時期です。ぜひご家庭でも、子供たちの頑張りを認め、励ましの言葉をかけてあげてください。言葉の力で、子供たちの未来がさらに輝くことを願っています。

まだまだ寒い日が続きますが、どうぞお体に気を付けてお過ごしください。

